

令和2年度 美祢市人権教育ふれあい講座・リーダー講座



共に学び！共に生きる！



～一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現に向けて～

【第6講座（リーダー講座）を開催して】

11月30日（月）に、美祢市民会館で、第6講座（リーダー講座）を開催しました。

事務局から、リーダー養成に向けた「山口県人権推進指針」等の説明後、『ハンセン病問題』をテーマに、山口市立大海小学校 教頭 佐々木 耕治（ささき こうじ）先生から、「日本におけるハンセン病政策の変遷と人権について」と題して、ハンセン病やその歴史、実際にハンセン病療養所を訪問して研修したこと等について、詳しく教えていただきました。

ハンセン病とは、「らい菌」という細菌による感染症で、末梢神経や皮膚がおかされることで感覚障害がおこり、温度や痛みを感じにくくなること、顔（鼻、目、口）や手足が変形する後遺症が残りやすいこと、その後遺症により差別されてきたこと、「癩予防法」の制定により、患者を療養所に強制入所させることで、「感染力の強いおそろしい病気である」との考えが広まり、差別がさらに強まったこと等を知りました。また、研修で実際に訪問した岡山県にあるハンセン病の国立療養所である長島愛生園（ながしまあいせいえん）や邑久光明園（おくこうみょうえん）の施設や入所者の思い等についても紹介され、長年続いた差別の実態を知り、心が痛みました。

現在、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見が、新たな人権問題となっています。感染予防に努めるとともに、感染者の人権に配慮し、医療従事者等へ感謝とエールを送りましょう。



【受講者の主な感想】

- ・ハンセン病についてあまり知らなかったので、とても分かりやすい講義で、大変勉強になりました。文明は100年前から見違えるほど進化したのに、日本人の内面や思想的なところは成長せず、差別や偏見等、同じ過ちを繰り返していることに、惨めさを感じました。
- ・ハンセン病について知っているつもりでも心のどこかで他人事のように思っていることに気付きました。コロナについても正しく恐れる（予防する）ということをもう一度考えようと思いました。より深く知ることの大切さ、冷静に考え判断できるかどうかなど、立ち止まって考えることができました。
- ・ハンセン病について、歴史的背景を知るにつれ、正しい理解が、いかに必要かがよく分かりました。新型コロナウイルス感染症流行の中、このようなお話を聞くことができたのは、大変意義深く、自分を見直す機会になりました。
- ・ハンセン病のことを全員が知っていたのなら、現在起こっているコロナ差別も起きることがなかったのではないかと思います。
- ・後で分かって、『あの時は仕方なかった』と言っても、当事者の時間は戻りません。正しい知識・理解が本当に必要だと痛感しました。
- ・『ハンセン病について正しく知る』『人権問題を積極的に学ぶ』ことを強く思いました。『骨になっても帰るふるさとがない』と言われていたことは、心が痛みました。人間らしく生きる権利を全ての人が守らなければならないと思いました。